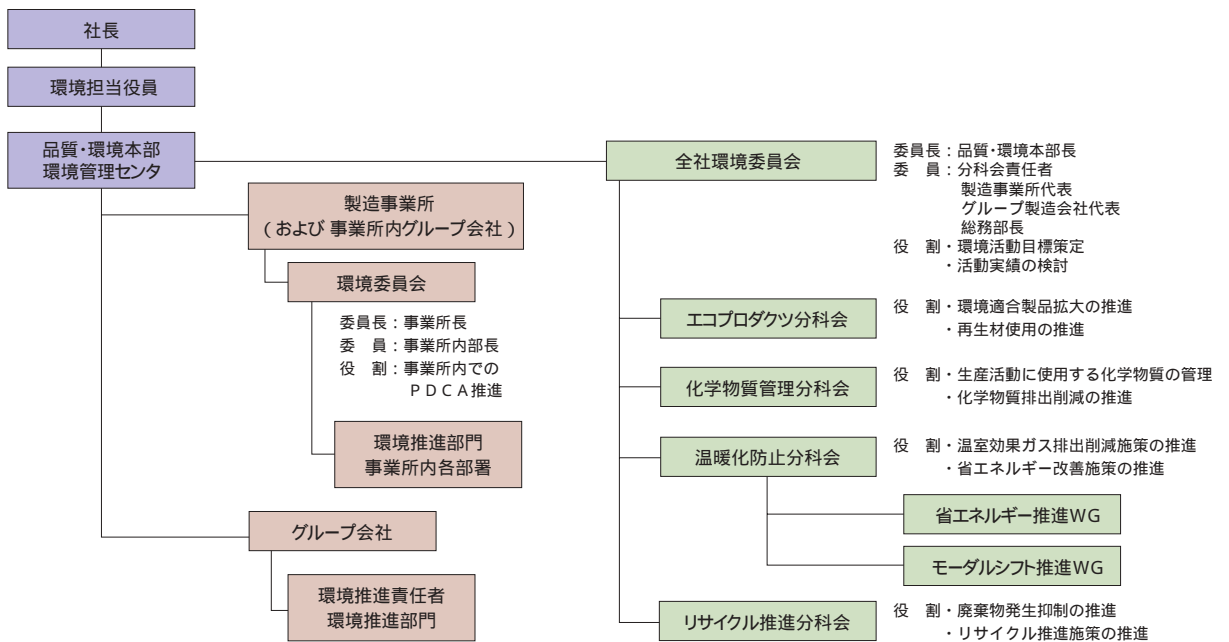


環境マネジメント体制

環境マネジメント体制は、ISO14001マネジメントシステムに基づいてマネジメントを推進する各事業所の体制と、全社行動目標の策定や達成度の確認・改善およびグループ全体に共通の課題を討議して改善をはかる全社環境委員会・

分科会からなる体制とによって運営しています。

全社環境委員会はグループ国内製造拠点の全てをカバーできるように、グループ会社委員を含めて構成しています。



ISO14001認証取得状況

日立電線およびサイト内グループ会社

認証取得サイト	サイト内グループ会社	認証年月	認証機関	認証番号
電線工場	日立ケーブルプレジジョン(株)日立工場	1997.3	JACO	EC96J1080
日高工場 豊浦工場 高砂工場 三沢工場 みなと工場 を含みます	日立電線メクテック(株) 日立電線ロジテック(株) ハイデックシステムズ(株) 日立電線ファインテック(株) 日立マグネットワイヤ(株) 日立製線(株) (株)ジェイ・パワーシステムズ日高事業所 (株)ジェイ・パワーシステムズ豊浦事業所 (株)アドバンスト・ケーブル・システムズ 日立電線機器(株)	1997.3	JACO	EC99J2092
土浦工場	日立伸材(株)	1999.3	JACO	EC98J1210

JACO:(株)日本環境認証機構

国内グループ会社

グループ会社	認証年月
東日京三電線(株)	2000.1
日立アロイ(株)	2002.11
騎西工場	
東北ゴム(株)	2003.3
本社・工場	
日立ケーブルプレジジョン(株)	2000.11
本社・工場	
日本製線(株)前橋工場	2002.2
日立電線商事(株)	2002.3

海外グループ会社

グループ会社	認証年月	所在地 (国または地域)
Hitachi Cable (Singapore) Pte.Ltd	1998.9	シンガポール
Hitachi Cable (Johor) Sdn.Bhd.	2000.5	マレーシア
Hitachi Cable Philippines, Inc.	2001.12	フィリピン
Thai Wire & Cable Services Co., Ltd	2002.7	タイ
Euro Wire & Cable Services Ltd.	2002.2	ハンガリー
Hitachi Cable Indiana, Inc.	2002.2	アメリカ
Giga Epitaxy Technology Corp.	2003.2	台湾
中天日立光纜有限公司	2003.12	中国
華南電線加工有限公司	2004.2	香港
日立電線精技(蘇州)有限公司	2005.3	中国
上海日立電線有限公司	2005.5	中国

環境管理実績評価: GREEN21ver.2

日立グループでは、環境管理のレベルアップや環境リスク低減・パフォーマンスの継続的向上をはかるための点数評価システム「GREEN21ver.2」を適用しており、日立電線グループも参加しています。

この点数評価システムは8カテゴリー53項目から構成されており、各項目とも活動状況あるいは活動実績について平均的レベルがレベル2となるような設問内容にしてあり、レベル4を達成すべき目標レベル、レベル5は目標を超えた先進的レベルの内容に設定してあります。各サイトは自サイトの現状に合ったレベルを0～5から選択して自己評価を行います。点数評価は各レベル0～5の数値に重み係数を掛けて計算した数値を評価点(=GP:グリーンポイント)として算出し、各カテゴリーとも100GP(=グリーンポイント点)満点、合計800GPとなるように設定してあります。

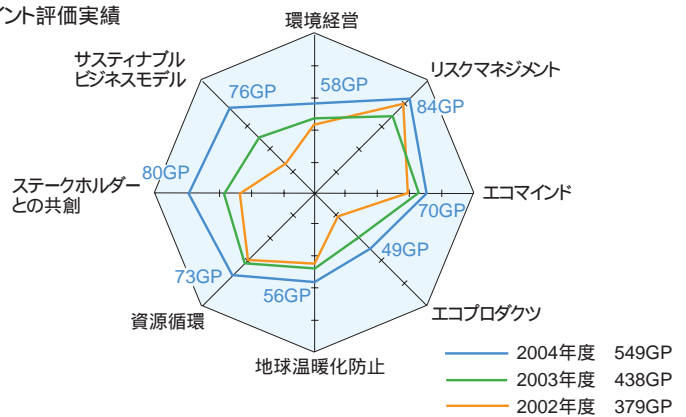
活動期間を2002年から2005年の4年間とし、目標を2005年に各項目ともレベル4に到達して合計640GPとなることにおき、環境管理の改善とレベルアップおよびパフォーマンス向上をはかる活動を推進しています。

環境監査

環境監査として、ISO14001マネジメントシステム単位の内部監査と環境管理実績をまとめた環境管理実績報告とを実施しました。ISOマネジメントシステム内部監査では、方針の徹底状況や部署毎に設定した目的・目標、実施・維持、遵法状況、監視測定状況などをチェックし、システムが正しく維持改善されているかを目的に、各システム単位で対象合計215部署について内部監査を実施しました。その結果システムの改善を要する不適合はありませんでしたが、教育記録不備などの軽微な要改善項目が41件あり、いずれも改善されました。また、各サイト毎に主として法規制に対する遵守状況を監査する環境管理実績報告の実施では、14サイトについて実施しました。その結果、下水道排水水質が条例を越えたケースがありました。是正処置によって改善されたことを確認しました。

区分	教育名称	回数
全社教育	階層別教育	
	新入社員教育	1回/年
	企画職員教育	3回/年
	管理監督者教育	1回/年
	海外会社責任者研修	2回/年
一般教育	インターネット教育(eラーニング)	各人とも1回/年
事業所教育	レベルアップ教育	
	特定業務要員教育	1回/年
	内部監査員教育	1回/年
	内部監査員教育(外部研修)	2回/年
	一般教育	一般教育・説明会
	従業員・家族向け広報紙	9回/年
	環境講演会	随時

グリーンポイント評価実績



評価カテゴリーと主な評価項目

No.	カテゴリー	主な評価項目
1	エコマネジメント - 環境経営	環境マネジメント、行動計画、環境会計
2	エコマネジメント - リスクマネジメント	法令・自主基準遵守、環境施設保全
3	エコマインド	従業員教育、家族への啓発
4	エコプロダクト	製品アセスメント、グリーン購入、物流
5	エコファクトリー - 地球温暖化防止	省エネルギー投資と改善、CO ₂ 排出削減
6	エコファクトリー - 資源循環	廃棄物削減、化学物質管理
7	ステークホルダーとの共創	情報開示、コミュニケーション、コミュニティ活動
8	サスティナブルビジネスモデル	体制、製品リサイクル、環境修復活動

目標と実績

年度	2002	2003	2004	2005
目標(GP)	-	426	533	640
実績(GP)	379	438	549	-

環境教育

社員一人ひとりが環境保全に対して高い意識を持ち続け、活動に積極的に取り組むことを目指して階層別の環境教育とインターネットを使用した教育(日立グループ共通eラーニング)を実施しました。このうちeラーニングについてはこれまでに合計1,869人が受講を終了し、環境保全に対する理解を深めることができました。

また、工場ではISOマネジメントシステムに基づく従業員教育と内部監査員教育を実施し、マネジメントシステムの向上をはかっています。さらに、従業員全員と家族向けには定期的に発行される広報紙に温暖化防止・省エネルギーやリサイクルの状況などの記事を連載して環境マインドの醸成をはかっています。

電線ニュース
2004 9月号
No.798

ま〜るい地球を、ま〜るくつつむエコ情報
〜シリーズその3 ライフサイクルアセスメント〜

最近自然電球と同じ形状の蛍光灯が普及してきました。「価格が高いが、消費電力が小さく寿命が長いので、長く使うとお得」というのが売り物です。同じような例が、ハイブリットカー。車両価格は高いが、燃費が優れているので、ハイブリットカーは走行距離の多い人にとっても経済的といわれています。

このように製品価格だけでなくランニングコストも合わせて評価しなければ、賢い消費者とはいえません。私たちがメーカーも、製品がどの位経済的か、環境に優しいかを数値で示さねば消費者に購入してもらえません。

このようにライフサイクルアセスメントとは、製品を開発する場合に、環境への優しさの程度を、原材料から生産、使用、廃棄まで(製品のライフサイクル)を通して、環境負荷を定量化する手段のことで、これらから、環境適合製品を開発する際のツールとして、当社においてもその活用が期待されています。

製品	電球代	電球代	合計
自然電球 (60W 寿命10000時間)	1900円	電球代 850円	合計 2750円
電球型蛍光灯 (60W 寿命10000時間)	1900円	電球代 1784円	合計 3684円

3年間で約5,500円の節約(は稼働/日 点灯の場合)

従業員向け広報紙

緊急事態への対応

環境汚染の事故を防止するために、各工場では薬液・油類・ガス類等を取り扱う施設・工程や排水処理施設・ボイラ等について緊急事態発生に備えて対応手順書を整備し、継続的な設備改善を実施しています。また、緊急事態発生を想定して施設・工程毎に緊急時対応の訓練を定期的に全サイトにおいて実施しました。訓練によって緊急時対応作業手順の再確認と訓練結果の評価をし、用具類の充足や要改善点の抽出などの内容チェックを合わせて行い事故予防をはかっています。

工場	訓練の内容(主なもの)
電線工場	薬液漏洩・重油流出
日高工場	排水水質汚濁・廃油流出・光化学スモッグ警報発令
高砂工場	薬液漏洩・特殊ガス漏洩・光化学スモッグ警報発令
豊浦工場	排水水質汚濁・少量危険物流出
土浦工場	洗浄液流出・油類流出



電線工場での緊急事態訓練

PCB使用電気機器保管状況

各工場において保管・管理をしている使用済PCB使用電気機器の個数は表の通りです。これらの電気機器は厳重な管理のもとで保管しており、処理期限までに処理が完了するよう、処理委託法などの検討を計画的に進めています。

工場	トランス	コンデンサ	その他(蛍光灯の安定器など)
電線工場	0	15	安定器 391 廃油 54リットル
日高工場	8	40	安定器 973 蛍光灯コンデンサ 1缶(16kg) ウエス 1缶(18リットルサイズ)
豊浦工場	3	64	安定器 659 ウエス等 6パック
土浦工場	1	360	安定器 573
日立電線機器本社工場	0	0	安定器 30
日立アロイ騎西工場	0	135	安定器 23
東日京三石岡事業所	0	4	0
東北ゴム本社工場	0	9	0

環境に関する規制の遵守状況

2004年度はグループ全体において指導が1件、クレームが4件ありました。指導は、公共下水道を管理している広域下水道組合殿が立入りをした時に採水をした下水道排水から鉛が0.11mg/L検出されたことから日高工場が受けたものでした。日高工場では排水の鉛成分については重点監視をしており、規制値(0.1mg/L)および自主管理値(0.08mg/L)を超過したことはありませんでしたが、指導は重く受けとめ鉛含有物質を取り扱う工程で排水処理装置の運転条件管理を再徹底すること、配管系統を改善することなどの改善策6件を実施しました。あわせて恒久対策として鉛溶解施設の撤去を検討しています。これらの改善によりその後下水道排水に含まれる鉛含有量は自主管理値(0.08mg/L)以下に安定しています。また、クレーム4件は騒音に関するクレームが電線工場・日高工場・高砂工場各1件の合計3件と土浦工場で台風雨水により排水が増水した際に排水路から隣接地に水が流れ出たという1件でした。いずれも法令上問題となるレベルではありませんでしたが、技術改善を実施し対策をいたしました。周辺住民の方々へご迷惑をおかけしないよう施設・設備の稼働状況点検にはさらに注意をするようにいたします。

指導・クレーム件数

区分	2002年度	2003年度	2004年度
罰金・科料	0	0	0
指導	0	2	1
クレーム	3	2	4

表彰

日立グループ各社のサイト等を対象に、環境という視点から先進的な活動の実施や製品を設計・開発しているサイトを表彰する「GREEN 21 表彰」の大賞を、日立電線日高工場が受賞しました。受賞となった活動は「廃電線リサイクルシステム」が業界初かつ持続性のある活動であること、また「RoHS対応電線開発」はEU規制に対応した機器用電線を開発・製品化し同時に重金属微量分析技術を開発し品質管理体制を強化したことが評価されたものです。



グリーン大賞 発表会